

第 3 章

人 口

第3章 人口

概況

大阪府の人口(平成17年10月1日国勢調査速報値)は881万7010人で、平成16年より1742人、0.02%減少し、人口総数は平成13年から4年連続して増加していたが、今回減少した。

大阪府の1年間(平成16年10月1日から平成17年9月30日まで)の人口増加を自然増加(出生と死亡の差)と社会増加(人口増減数と自然増加の差)に分けてみると、自然増加数は、前年増加数より7061人少ない8248人、0.09%増となった。

一方、社会増加数は、平成16年のマイナス1万2017人、0.14%減からマイナス9990人、0.11%減となった。

大阪府の世帯数は、365万247世帯で、平成16年より2万9184世帯、0.81%増加した。

人口と世帯数の伸びを比較すると、世帯数の増加率が人口の増加率を上回っているため、1世帯当たり人員は2.42人と平成16年より0.02人下回り、世帯規模の縮小化が引き続き進んでいる。

転入と転出

平成16年中の住民基本台帳人口移動報告による大阪府の転入と転出をみると、転入者は平成15年より6925人減少し、16万8135人となった。

一方、転出者は平成15年より7874人減少し、18万1078人となり、この結果、転出が転入を上回り、転出超過数は、1万2943人となった。

年齢構造

平成12年国勢調査(平成17年国勢調査結果未集計のため)による大阪府総人口の年齢3区分別構成をみると、年少人口(0～14歳)は124万9955人、生産年齢人口(15～64歳)は622万4186人、老年人口(65歳以上)は131万5213人で、それぞれの総人口に占める割合は、14.2%、70.7%、14.9%となっている。

年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口は昭和50年をピークとして減少しており、平成12年には平成7年より7万1520人、5.4%減少し、総人口に占める割合は0.8ポイント縮小した。一方老年人口は平成7年より26万7338人、25.5%増加し、総人口に占める割合は3.0ポイント拡大した。

また、生産年齢人口は第1次ベビーブーム(昭和22年～24年)に出生した人口が15歳以上に達した昭和40年に総人口の72.5%を占め、その後は70%前後でほぼ横ばいに推移してきたが、第2次ベビーブーム(昭和46年～49年)に出生した人口が15歳以上に達した平成2年に72.7%まで上昇した。しかし、出生率の低下とともに老年人口の急速な増加により、近年は低下傾向を示している。

次に、平成7年から平成12年の5年間の5歳階級別人口増加率をみると、100歳以上が133.5%増で最も高い増加率となっており、次いで、95～99歳(89.8%増)、90～94歳(66.2%増)と続いている。

一方、最も高い減少率を示しているのは、45歳～49歳の26.2%減で、次いで、20～24歳(21.6%減)と続いている。

労働力人口

平成12年国勢調査(平成17年国勢調査結果未集計のため)による労働力人口状態をみると、15歳以上人口753万9399人のうち、労働力人口(就業者+完全失業者)は444万5438人で、労働力率(15歳以上人口に占める割合)は、59.0%である。

一方、経済活動に従事していない家事従事者、通学者、高齢者などの非労働人口は289万8325人であった。

人口動態

本府の出生率の推移をみると、第2次世界大戦直後の昭和22年から24年頃までは、人口千人に対して30前後の高い率を示していたが、その後は低下を続け、32年に15.2とそれまでの最低を記録した。翌33年から上昇に向かい、42年には、23.2となり、以後、横ばいの状態が続いていたが、47年からは再び低下傾向を示している。

平成16年の本府における出生数は7万9719人、出生率(人口千対)は9.2(全国8.8)となっている。

一方、本府の死亡率の推移をみると、昭和22年に人口千人に対し14.5であったのが、戦後のめざましい医学の進歩、生活環境の改善等により、46年には5.1にまで低下し、以後、横ばいの状態が続いたが、近年は微増の傾向にある。

平成16年の本府における死亡数は、6万5160人、死亡率(人口千対)は7.5(全国8.2)となっている。

また、平成16年の本府における死産数は、2463胎(出産千対の死産率30.0)、婚姻件数は5万2831件(人口千対の婚姻率6.1)、離婚件数は2万1741件(人口千対の離婚率2.51)となっている。

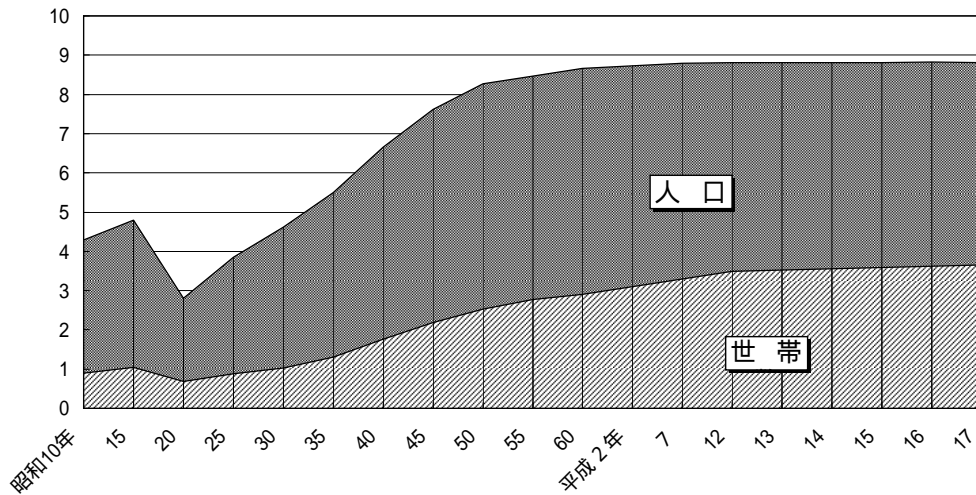
次に、平成16年簡易生命表(厚生労働省作成)によると、日本人の平均寿命は、男子は78.64年で前年に比べ0.28年、また、女子も85.59年で前年に比べ0.26年の拡大を示した。

これを国際的にみると、国により生命表の作成基礎期間が異なるため、厳密な比較はできないが、平均寿命が高い順に並べると、男性は、アイスランド78.80年、日本78.64年、スウェーデン78.10年、そして、女性は、日本85.59年、スペイン83.60年、スイス、フランスが83.00年となり、男女とも日本の平均寿命は長く、世界のトップグループに入っているといえる。

なお、全国的にみると、大阪府の平均寿命は平成12年都道府県別生命表(厚生労働省作成)から、男性76.97年、女性84.01年で47都道府県中(全国男子77.71年、女子84.62年)男子43位、女子46位となっている。

人口・世帯数の推移

(百万世帯・百万人)



出生数と死亡数の推移

(万人)

